

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100429		
法人名	社会福祉法人 青森令和会		
事業所名	グループホームきらら篠田		
所在地	青森市篠田3丁目20-23		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者と同じ目線に立ち、家庭的な雰囲気の中で家族の一員とじていただけるように接している。利用者一人ひとりの能力を把握しており、日常生活の中で発揮できる機会を作り、利用者同士が助け合って生活できるように見守っている。また、地域の行事に参加したり、地域の方々にホームの行事に参加していただくことで、ホームの理解を深めてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な住宅街の中にあり、町内会に加入し、敬老会や日帰りの旅行に参加する等、地域住民との交流を大切にしている。ホーム主催の納涼祭には利用者家族のほか、地域住民の参加もあり、利用者から大変喜ばれている。今年度は新型コロナウイルスの影響によりイベントが中止されている中、利用者の安全を第一を考えながら、少しでも日常の気分転換につながるよう様々な行事を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎日唱和し、理念を理解するとともに、それを実践に繋げるように努めている。	ホーム職員全員で作った理念は、地域密着型サービスの役割を反映させたものであり、職員は常に理念を意識して、毎日のサービス提供に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回、地域に広報紙を配布し、ホームの理解を得ていただけるように努めている。現在は新型コロナウイルスの影響で地域とのつながりがあまりできていない。	近隣の住民とは日頃から町内会のイベントを通じて交流がある。また、ホームで主催する納涼祭への参加や消防訓練への協力があり、利用者や家族から喜ばれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報紙を作成したり、ホームページでホームの状況等をいつでも見られるようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 社会福祉法人 青森社会福祉協議会	現在、新型コロナウイルスの影響で運営推進会議の中止が続いているが、関係者にはアンケート用紙を配布し、意見をいただき、サービスの向上につなげるようにしている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で開催できていないため、2ヶ月に1回郵送でやりとりを行っている。メンバーから運営についての意見が出されており、ホームのサービス向上につながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を市に提出し、必要に応じて意見を聞いたり、市からの意見があれば改善に努めている。	介護保険課事業者チームと日頃から利用者の課題解決に向けて連絡を取り合っており、連携の構築はできている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、委員会の報告の場を設け、内容をユニットで共有し、身体拘束をしないケアを目指している。また、年2回内部研修を行っている。	ホームでは、身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に会議を実施している。職員は内部研修等を通じて、身体拘束の内容やその弊害を理解しており、身体拘束はしないという方針でケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員が高齢者虐待について学ぶ機会を設けている。虐待を理解し、虐待のないケアの実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度等の理解をしている職員が少ない。今後は、研修等で学ぶ機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、管理者から契約と重要事項等を一つ一つ説明している。不明な点があればその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置し、家族からの意見や要望があれば改善するよう努めている。	職員は普段の会話の中から入居者の不満や意見を察するように努めている。また、家族や知人が面会に来たときは必ず声掛けし、気兼ねなく意見や苦情を出しやすいような関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と個人面談を行い、職員の意見や提案を聞く場を設けている。	月1回ユニット会議を行い、運営や入居者の受け入れ等に関して職員の意見や提案する機会を設けている。また、管理者は定期的に職員と個人面談を行っており、より良いホームの運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や日々の就業実績を通じて職員の個々の能力を把握し、各自が働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力を把握している。研修に参加して欲しいと思っているが、現在新型コロナウイルスの影響により外部研修の参加を控えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームとの月1回の会議を行っており、サービスの向上を目指して改善を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前見学を行い、不安なことや要望を聞き取っている。入居後もコミュニケーションを図り、ニーズを把握しながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、利用者と家族から話を聴き、必要なサービスを見極めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションの中でニーズを見極め、職員間で共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの残存機能を把握し、本人に合ったサービスを提供している。また、共に生活する一員として関係性作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に情報を共有し、共に支え合う関係性作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に立ち寄りやすい雰囲気作りを心掛けているが、新型コロナウイルスの影響のため、現在は面会の制限をしている。	日頃のコミュニケーションで、馴染みの人や場所について把握しており、希望により美容院等への外出支援を行っている。最近では新型コロナウイルスの影響により家族等からの電話での交流が多いため、取り次ぎ等の支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態に応じて、できる限り居室内にこもらないように声掛けや支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて支援をしたり、情報提供や相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人ひとりのニーズを把握し、ケアに繋げている。	職員は日々のケアの中から思いや意向を把握するように努めている。また、家族や職員からも情報収集する等、全職員が利用者の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣、環境等を聞き、これまで生活してきた環境とあまり差がないよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、ホーム主体ではなく、利用者の生活に合わせるように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を共有し、利用者が必要なケアを把握した上で介護計画を作成し、実践に繋げている。	利用者や家族、関係者から意見をいただき、反映させた計画を作成している。介護計画は定期的に見直ししている。また、利用者の身体状況や希望に変化があった場合は、その都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、それを共有し、実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとつの支援にとらわれず、様々な意見を取り入れ、チームで柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、地域の中で暮らせる工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切にし、入居後も希望があれば受診対応している。	入居時にかかりつけ医を確認し、希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、希望により協力医療機関の往診も受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診、往診時に都度状況の報告をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し、入院中は医療機関や家族と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針があり、早い段階で主治医や家族と話し合いの場を設け、ケアの方向性を決めている。また、職員間で共有している。	協力医療機関と連携しており、看取りの体制はできている。重度化した場合に備えて、利用者と家族の意向を尊重し、看取りについての意志統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、内部研修等を行い、いつでも対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、避難訓練を行っており、全ての職員が災害時の対応をできるように取り組んでいる。	年3回、地域住民や消防署の協力を得て避難訓練を行っている。災害時に備えて、食料や飲料水、ストーブ等の暖房器具等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に十分に配慮している。生まれ育った環境等により言葉の理解が困難な場合は、理解しやすい言葉掛けや表現を心掛けている。	利用者には「さん」付けで呼んでいる。常に利用者を尊重しており、言動を否定せず、守秘義務やプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、自分で選択できる支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを尊重し、タイムスケジュールにとらわれず、自己決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら衣類を選択できる利用者以外は季節感や本人を好みを把握した上で職員が選択している。また、身だしなみには十分気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事を把握し、定期的にメニューに反映している。また、季節感が感じられる献立作りに努めている。	利用者の好き嫌いを考慮し、給食委員の職員が献立を作り、手作りの料理を提供している。また、職員も一緒に同じメニューを一緒に席で摂り、ホーム全員で会話をしながら食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて工夫している。食事摂取量が少ない場合は補食等をして、健康維持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをしている。必要に応じて介助し、口腔衛生に努めている。また、義歯使用者は毎日消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	入所直後は排泄チェック表を活用している。トイレ誘導が必要な利用者には、プライバシーや羞恥心に配慮した支援を行っている。排泄の自立支援に向けた見直しも随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や水分補給等、できる限り自力で排泄ができるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴時間を定めているが、強制せず、拒否する場合は時間や日にちを変えて対応している。	ホームでは週2回入浴できるようにしており、利用者のその日の体調や状況に合わせて、個別に支援している。また、できる限り同性介助で対応する等、利用者の羞恥心に配慮した対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に不眠の利用者には不安を取り除く声掛けや対応をしている。安心して眠れるように環境整備を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握して、その人の健康状態を見ながら柔軟に対応している。状態の変化が見られた場合は、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、楽しくホームで生活できるように支援している。新型コロナウイルスに配慮し、外出支援はドライブをして、気分転換している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響のため、外出はドライブのみの対応としている。また、外泊等も制限している。	新型コロナウイルスの影響で外出が制限される中でも、感染予防対策をしっかり行い、天気の良い日はドライブや買い物にも出掛けており、少しでも利用者が気分転換できるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで管理しているが、家族の希望に応じて自身が管理している利用者も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族へ電話をしたり、お手紙等を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温管理や季節感のある壁装飾をして、居心地の良い空間作りをしている。	ホールには、テーブルや椅子、ソファがあり、利用者は温度や湿度の管理された快適な環境の中でそれぞれのお気に入りの場所で思い思いに寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士の共有空間を設けている。一人になりたいときは居室で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はこれまでの生活で使用していたものや使い慣れた物を使用し、心地よく過ごせるように工夫している。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうように働きかけており、利用者は椅子や位牌等、それぞれ思い入れのある物を持ってきている。できるだけ穏やかに、安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になるものを置かず、場所が分かりやすいように目印や張り紙等をし、工夫している。		